

VI 海外大学・機関との交流

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 紀子, ライアン, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010078

VI 海外大学・機関との交流

松田 紀子／ライアン 優子

1. 大学間・部局間交流協定

当該期間に、次の5件の大学間協定、8件の部局間協定が新たに締結された。

(協定校名(国名) 署名日)

〈大学間交流協定〉:

カウナス工科大学(リトアニア)	2015.10.22
カールスルーエ工科大学(ドイツ) * 学術交流のみ	2015.11.24
マレーシア工科大学(マレーシア)	2015.12.2
テイラーズ大学(マレーシア)	2015.12.2
ベトナム教育訓練省	2016.7.25

〈部局間交流協定〉

□工学部・総合科学技術研究科 国立中央大学工学部(台湾)	2015.11.19
ラジャヒ大学工学部(バングラデシュ)	2016.2.28
□情報学部・総合科学技術研究科 オンタリオ工科大学(カナダ)	2016.6.28
□理学部・総合科学技術研究科理学専攻 仁荷大学校自然科学大学・大学院海洋科学生物工学研究科(韓国)	2016.6.27
□農学部 スーリヤ大学生命科学部(インドネシア)	2016.5.24
□電子工学研究所 キングモンクット工科大学ラカバン校 * 学術交流のみ	2016.7.27
□法科大学院(地域法実務実践センター) 復旦大学高級律師学院(中国)	2016.6.15
蘇州大学王健法学院(中国)	2016.6.15

2. 海外同窓会活動・海外における静岡県内自治体、企業との連携

国際交流センターは、各国の卒業生のネットワーク強化と、海外の活動における静岡県の自治体、企業との連携推進に努めている。

その一貫として、平成28年1月に、インドネシア・ジャカルタ市内において、平成24年7月に続き第2回静岡大学海外同窓会インドネシア支部の集いを開催した。インドネシア在住の同窓生(留学生43名、日本人3名)、静岡県内企業関係者(9名)に加え、在インドネシア日本国大使館より竹山参事官の出席を賜わり、総勢約70名が出席した。

日時:平成28年1月23日(土曜日)

11:45-12:45 同窓会ミーティング

13:00-15:00 同窓会と静岡県、企業関係者とのランチ交流会

場 所：Crowne Plaza Jakarta

なお、海外職員研修（職員課による運営、国際交流課・センターの協力・支援で実施）の機会として、研修生2名も当日の運営に携わった。

3. 海外拠点整備

1) タイ海外事務所（平成21年11月開設、タマサート大学東アジア研究所内）

平成27年度に続き、平成28年度も非常勤スタッフが週に一日の活動を行った。主な活動内容は、タイからの留学生の派遣支援活動で、アジアブリッジプログラムを中心とする静岡大学のプログラムの広報、タイにおけるアジアブリッジプログラム副専攻学生の短期研修の運営補佐等である。

- JASSO日本留学フェア等の広報イベントへのブース出展
- アジアブリッジプログラム副専攻学生向けタイ海外研修の運営支援
- 高校生を対象としたアジアブリッジプログラムの広報活動
- タマサート大学東アジア研究所内事務所の管理

2) インドネシア海外事務所（平成22年2月開設、ガジャマダ大学UGM農学部内）

当事務所には、平成25年1月より非常勤スタッフ（現地相談員）を配置するとともに、Skype用スクリーンを設置し、インドネシアにおける活動を活発化させるためのインフラ整備が充実している。事務所スタッフの活動としては、本学教職員の現地訪問時や、毎年農学部がガジャマダ大学と協力し「海外フィールドワーク」科目として1週間の現地実習を行う際の現地のコーディネート、交換留学学生派遣・受入れに関する支援・調整、元留学生の情報収集およびデータベース整理を通じた同窓会活動支援等がある。

また、インドネシアでは、平成27年3月からインドネシア大学工学部の厚意で提供いただいているスペースに設置したSkype用スクリーンやパソコンを活用して、本学とインドネシア大学をつなぐSkype会議を重ねて開催するなど、交流活動をさらに活発化させている。

3) ベトナム海外事務所（平成27年3月開設、ベトナム・ハノイ国家大学外国語大学内）

ハノイ外国語大学内にSkype用スクリーンやパソコンを本学から提供して設置し、本学教職員の現地訪問時の活動拠点としている。

4. インターアカデミア・アジア Inter-Academia Asia 2015

「インターアカデミア・アジア」は、アジア地域（主に東南・南アジア地域）の協定大学と連携し、アジアを中心とする海外で活躍するグローバル人材育成のための新たな教育プログラム「アジアブリッジプログラム（ABP-SU）」の実施に向けた協力体制の構築や、修士課程に焦点をあてた研究・教育における交流促進を主な目的として、2014年2月の準備会合を皮切りに、原則年1回の会議を開催している。

1) インターアカデミア・アジア (IAA) 第2回会議

平成27年11月30日から12月2日まで、国立大学協会、静岡大学超領域研究推進本部との連携でインターアカデミア・アジア (IAA) 第2回会議を開催した。

初日の11月30日は、国立大学協会との共催による大学改革シンポジウム「企業が求める人材像について考える—静岡大学アジアブリッジプログラムが目指すもの—」を開催し、地元企業や海外の協定校（翌日の学生研究発表会および研究交流打合せ等で来静）から約110名が参加した（英語同時通訳）。

シンポジウムは、伊東幸宏学長による開会の挨拶に続いて、基調講演及びパネルディスカッションの二部構成により行われ、「企業の求める国際人材と大学から輩出される人材とのギャップ」、「日本の大学を卒業した留学生のリクルート」等をテーマに、ABP-SUにより輩出が期待される人材像について幅広い議論が行われた。鈴木滋彦副学長（国際交流担当）の挨拶で閉会后、企業や自治体、大学関係者らとの交流の機会が持たれた。

2日目の12月1日(火)は、「インターアカデミア・アジアと超領域研究推進本部による国際シンポジウム2015」を静岡市駿河区のグランシップにおいて開催した。8ヶ国（マレーシア、タイ、インド、インドネシア、バングラデシュ、ベトナム、モンゴル、中国）15機関（マレーシア工科大学、テイラーズ大学、プトラマレーシア大学、キングモンクット工科大学、タマサート大学、チェンマイ大学、インド工科大学、スリ・ラマサミー・メモリアル大学、インドネシア科学技術評価応用庁、インドネシア大学、バンドン工科大学、ラジシャヒ大学、ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学、モンゴル国立教育大学、香港科技大学）から26名の研究者・学生を招き、静岡大学の教職員・学生を含め約110名が参加した。

インターアカデミア・アジアの招聘大学と本学の学生による口頭およびポスター発表が行われ、国内外の研究者と学生がそれぞれの研究分野の枠を越えて交流した。

5. インターアカデミア Inter-Academia 2016

2016年9月26日から28日までの3日間、中東欧の協定校との国際会議第15回Inter-Academia 2016が、ポーランドのワルシャワ工科大学で開催された。36か国から126名が集まり、静岡大学からは、木村雅和教授（理事）、原和彦教授（創造科学技術大学院長）、永津雅章教授（第15回インターアカデミア共同議長）をはじめ、44名の教員と大学院生が参加をした。

オープニングには学術関係者に加えて、松富重夫在ポーランド日本国大使のご臨席を賜った。大使は冒頭の挨拶で、静岡大学の中東欧との15年にわたる教育・研究交流実績に触れ、学術交流活動のポーランドの自律的な経済成長における重要性について言及された。また、ワルシャワ大学の教育担当副学長Krzysztof Lewenstein教授、機械工学部長Natalia Golnik教授、本学の木村理事から挨拶があり、続けて、ポーランド国立計量研究所の所長Włodzimierz Lewandowski博士、本学の齋藤隆之教授、田部道晴名誉教授による基調講演が行われた。

3日間を通して40件以上の口頭による研究発表、40数名の大学院生を中心とした若手発表者によるポスター及びショートプレゼンテーションが行われた。ショートプレゼンテーション参加者対象のYoung Researchers Awardでは、静岡大学院生2名、静岡大学とワルシャワ工科大学の博士ダブルディグリープログラム修了生1名を含む、5名が受賞をした。

インターアカデミア・エグゼクティブ・ミーティングにおいて来年（2017）の16回目のインターアカデミアは、アレクサンドル・イワン・クザ大学（ルーマニア）を幹事校として、9月に開催を予定である。

6. 日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定受入・協定派遣）」

本事業は、学生の超短期での海外派遣・受入れを推進することを目的として平成23年7月より開始された奨学金事業「留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）」（3か月未満）を一部取り込んで、平成25年度には「留学生交流支援事業（短期受入・短期派遣）」（短期研修・研究型：8日以上1年以内、交流協定留学型：3か月以上1年以内）、ついで平成26年度には「海外留学支援制度（短期受入・短期派遣）」（双方向協定型：1 Semester以上の交換留学、短期研修・研究型：8日以上1年以内）、さらに平成27年度には「海外留学支援制度（協定受入・協定派遣）」（双方向協定型：1 Semester以上の交換留学、短期研修・研究型：8日以上1年以内）として実施されているものである。高等教育機関には、交流校との間で短期の学生の派遣・受入れの教育プログラム（単位付与を伴う）を構築することが期待され、このプログラムに参加する学生に一定の奨学金が支給される。

当該時期における本学の採択状況および延べ参加学生数は、以下のとおり。

平成27年度：7件（申請7件）、延べ99名

平成28年度：3件（申請9件）、延べ98名

7. 博士課程ダブルディグリー特別プログラム（複数学位制度、DDP）

当該期間に、あらたにタラス・シェフチェンコ・キエフ国立大学（ウクライナ）、カウナス工科大学（リトアニア）との同覚書が締結され、計15大学との博士課程ダブルディグリー特別プログラムを展開している（アジア5校、ヨーロッパ10校）。

8. 国際協力機関との連携

平成28年5月16日及び同20日に、(独)国際協力機構（JICA）と連携をし、バングラデシュ国の「地方都市行政能力強化プロジェクト」の日本での研修の開講式・講義・閉講式を実施した。この研修は、急速に都市化が進むバングラデシュにおける地方都市（ポルショバ）の行政能力強化に係る基盤整備を目的としたプロジェクトの一環として6日間に亘り静岡県・静岡市の両機関において実施されるもので、本学では開・閉講式及び地方行政の仕組みに関する講義を行った。開講式では、28名の研修生（政府関係者3名及び地方都市市長25名）に対し、伊東幸宏学長及び本研修の実施を主体的に進めた池田恵子教育学部教授からの挨拶の後、研修生を代表してオミタブ・ショルカル バングラデシュ政府地方自治農村開発共同組合省地方自治担当総局長から抱負の言葉が述べられた。引き続き日詰一幸人文社会科学部教授が、日本における地方行政の仕組みに関する講義を行った。

研修期間中には、4日間の静岡県・静岡市への表敬訪問及び現場視察のほか、本学在籍のバングラデシュ学生や教育学部の学生らとの交流の機会も設けられた。また20日の閉講式では、鈴木滋彦副学長（国際戦略担当）、池田教授らからの挨拶に引き続き、富澤隆一 JICA産業開発・公共政策部次長から研修員ひとりひとりに修了証書が手渡された。

9. 海外教育機関との往来訪

来 訪

10/1 トゥン・フセイン・オン・マレーシア大学 Chin Fhong, Soon電子工学科長, Dr Mohd Khairul Bin Ahmad氏	マレーシア
10/20 モンゴル教育・文化・科学省訪問団 学長表敬訪問 ボルガエルデネ教育・文化・科学省事務次官他8名	モンゴル
10/30 ネブラスカ大学オマハ校 ジョイントジャズコンサート(静岡・ 大学会館) Prof. Tomm Roland(音楽グループ), 教員6名、学生17名 Lori Arias副所長, Dr. Cindy Phaneuf(UNO劇場)	アメリカ
11/6 バンドン工科大学 Dr. Acep Purqon助教	インドネシア
11/30-12/2 インターアカデミアアジア(静岡・浜松) アジアの協定大学9大学から教員9名、学生9名(インド、インドネシ ア、タイ、バングラデシュ、ベトナム、香港、マレーシア、モンゴル)	アジア (8か国)
12/2 マレーシア工科大学、テイラーズ大学 大学間交流協定等調印式 マレーシア工科大学: Wahid Bin Omar副学長・教授、他3名、 テイラーズ大学: Angela Pok学生交流副学長	マレーシア
12/8 シンガポール国立大学 日本語授業見学、センターとの懇談 学生5名	シンガポール
1/12 テイラーズ大学 Chong Chien Hwa副学部長、他9名	マレーシア
1/21 インドネシア教育大学 教員3名、学生7名(サクラサイエンス)	インドネシア
1/25 ネブラスカ大学オマハ校 Patrick WCNAMARA英語コース長、Sarah Osborn副英語コース長	アメリカ
2/12 復旦大学法学院、中国社会科学院法学研究所 復旦大学: SUN Xiaoxia法学院長 中国社会科学院: SUN Xian Zhong民法研究室主任、欧盟法研究センター長	中 国
2/17 インドネシア宗教省 Nur Kholis Setiawan教育所長、他3名	インドネシア
2/29 テイラーズ大学 Mushtak Al Atabi副学長	マレーシア
3/7 上海セラミックス研究所 教員1名、大学院生10名(サクラサイエンス)	中 国
3/10 タマサート大学 Kitti Prasirtsuk東アジア研究所長 他1名	タ イ

6/1 香港理工大学 Curtis Ng工学博士、他教員2名、学生40名	香港
6/7 フランス大使館 David-Antoine Malinas大学交流担当	フランス
6/28 キンモンクット工科大学トンブリ校 (KMUTT) Anak Khantachawana国際担当副学長	タイ
7/1 カリフォルニア州立大学サクラメント校 ミンタン・リー プロボスト・副学長、増山和恵教授 (外国語学部日本語学科) 他関係者4名	アメリカ
9/1 SRM大学 C. Muthamizhchelvan工学部長、学生15名	インド

往 訪

10/30 ハノイ工科大学 センター教員1名、農学部教員1名	ベトナム
10/31-11/1 留学フェア (ハノイ・ホーチミン) センター教員1名、農学部教員1名、職員1名	ベトナム
11/6 ベトナム教育訓練省国際教育開発局 鈴木副学長 (センター長)、グローバル企画推進室教員1名	ベトナム
11/7 ハノイ国家大学外国語大学 創立60周年記念式・学長表敬・感謝状授与 鈴木副学長 (センター長)、グローバル企画推進室教員1名	ベトナム
11/14-15 留学フェア (スラバヤ・ジャカルタ) センター教員1名、工学部教職員各1名、グローバル企画推進室教職員各1名	インドネシア
11/16 インドネシア大学工学部 センター教員1名、工学部教職員各1名	インドネシア
1/23 静岡大学海外同窓会インドネシア支部会 (ジャカルタ) 鈴木副学長 (センター長)、学長補佐、センター教員1名、インドネシア事務所員、海外職員研修2名 (本部・工学部)、グローバル企画推進室教職員各1名	インドネシア
1/25 ガジャマダ大学 国際交流オフィス・農学部・工学部 センター教員1名、海外職員研修2名 (本部・工学部)	インドネシア
2/22-24 サセックス大学 (春季短期留学引率) センター教員1名	イギリス
6/28-29 日独学長会議 (ベルリン)、7/1 日仏高等教育改革シンポジウム (パリ) 鈴木国際交流センター長他教員1名	ドイツ・フランス
8/4-9 静岡県モンゴル視察団 (ウランバートル) 鈴木国際交流センター長他職員1名	モンゴル

8/22-24 アルバータ大学 (エドモントン) 鈴木国際交流センター長他教員1名	カナダ
8/25-28 留学フェア (チェンマイ・バンコク) センター教員1名、現地事務局員1名	タ イ
9/2-4 日韓理工系学部留学生プログラム推進フェア センター教員1名	韓 国
9/26-28 インターアカデミア2016 (ワルシャワ工科大学) 教員・学生44名 (うち、センター教員1名)	ポーランド